

\* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、木材・木製品製造業が大きく悪化傾向を強め、食料品製造業、窯業・土石製品製造業でも悪化傾向を強めました。一方、家具・装備品製造業、建設用・金属製品製造業は大きく悪化傾向を弱め、また、出版・印刷・同関連産業、その他製造業でも悪化傾向を弱めたため、全体的には-55と前期に比べ5ポイント悪化傾向を弱めました。売上額は4ポイント減少傾向を弱め、収益は1ポイントわずかに減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格は8ポイント下降傾向を強め、原材料価格は6ポイント上昇傾向を強めました。原材料在庫は不足に転じました。資金繰りは3ポイント窮屈感が弱まりました。残業時間は1ポイントわずかに減少傾向を強め、人手は不足に転じました。設備の状況は5ポイント不足感を強め、設備投資を実施した先は機械設備の更改などで23%と、前期に比べ4ポイント増加しました。

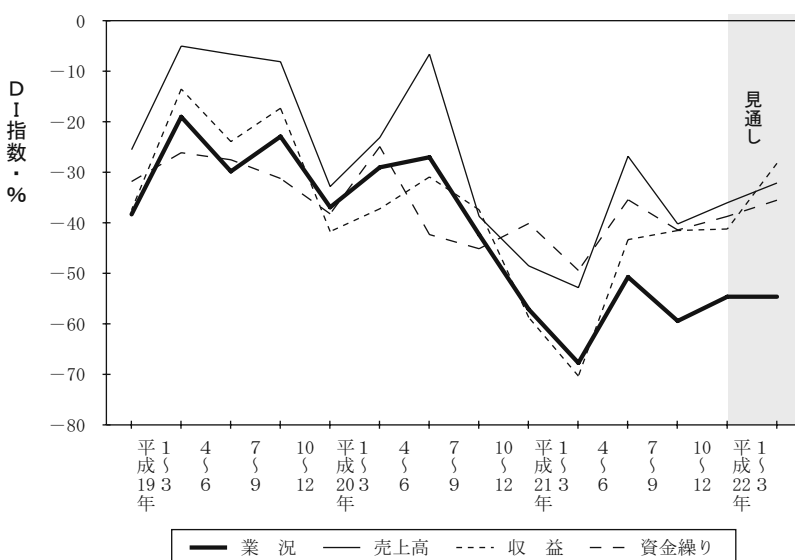
来期の見通し

業況は、木材・木製品製造業、建設用・金属製品製造業で大きく悪化傾向を強め、その他製造業でも悪化傾向を強めるとみています。一方、家具・装備品製造業は良好傾向に転じ、食料品製造業、出版・印刷・同関連産業、窯業・土石製品製造業では悪化傾向を弱めるとみており、全体的には、来期は横ばいで推移するとみています。売上額は4ポイント、収益は13ポイント減少傾向を弱めるとみています。価格面は、販売価格は2ポイント下降傾向を弱め、原材料価格は5ポイント上昇傾向を弱めるとみています。原材料在庫は4ポイント不足感が弱まるとみています。資金繰りは3ポイント窮屈感が弱まりそうです。残業時間は2ポイント減少傾向が弱まり、人手は1ポイントわずかに不足感が強まるとみています。設備の状況は3ポイント不足感が強まり、事務機器を中心に14%の先が実施予定とし、今期に比べて9ポイント減少するとみています。

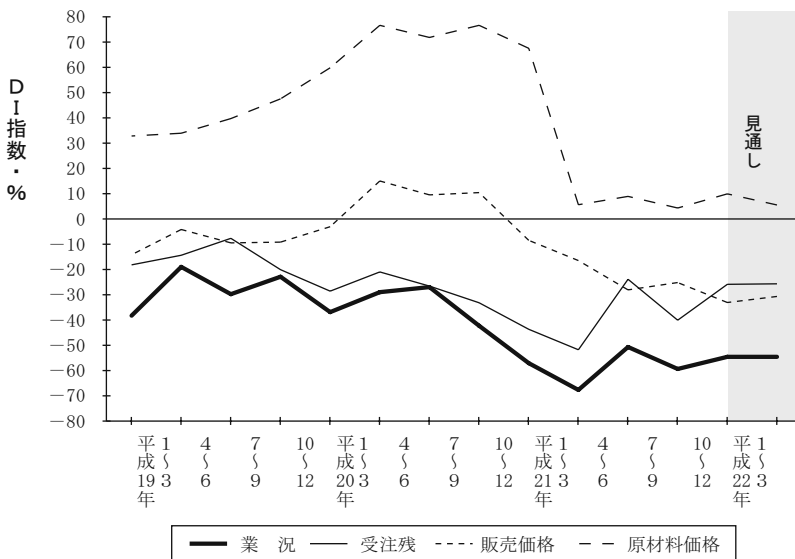
調査員のコメント

- 売上、収益とも減少しており、販路拡大や情報力を強化するなど、収益向上に向け努力している。  
(看板製作業)
- 売上減少傾向であり業況は厳しい。新商品の開発等により売上増加を図ることが必要である。  
(木工玩具製造)

景況の推移

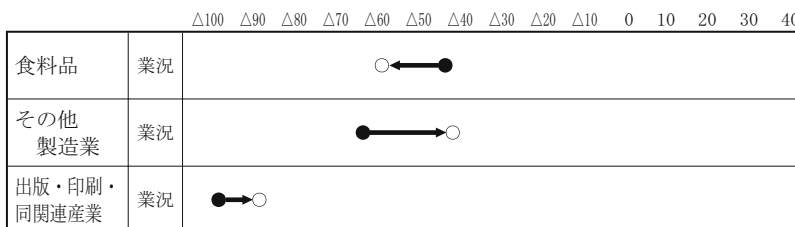


主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(21年10月~12月) / 前期(21年7月~9月)



経営上の課題点	1位	76%
	2位	41%
	3位	28%

当面の重点経営施策	1位	66%
	2位	61%
	3位	32%

\*( )は前回順位